

振り返れば優しい微笑みがある

早いもので先日、孫が1歳の誕生日を迎えました。少し離れたところに住んでいるのですが、毎日のように写真や動画を送ってきてくれるので

成長の様子がわかり、楽しみのひとつです。おかげ様で元気に成長しているようです。

先日、ふと気がついたことがあります。

赤ちゃんは、自分の中に備わっているプログラムに従って自然に成長していくものですが、新しいことに挑戦する場面が次々と訪れます。

母親の胎内とはあまりにも違う環境に出てきて生きていく力を身につけていかなければならないのですから大変です。

子どもは「これは大丈夫？」「こうしたらどう？」ひとつひとつ母親を見て確認しています。

優しく微笑んでいる母の様子に安心して成長、発達していくのですね。

やがて「見ててね！」と言うようになり、物事の善悪をも母の表情で確認するようになります。

ふと気がついたことというのは、後にいわゆる問題行動をおこしてしまう子どもたちには、振り返った時、つまり瞬間的に安全確認をしたいときに

大丈夫！と微笑む存在はあったのだろうか……

わたしたちが考えるより長い期間、子どもには安定した優しい微笑みで見守ってしてくれる存在が必要なのかもしれない……

母親だけにこの大切な役目を担えというのは現代社会には全く合いません。

その代わりをつとめる人にも自覚をもってもらう必要があるでしょう。

子どもと過ごす時間はおおらかで楽しくでも、真剣でいたいと考えます。